

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 42 号

平成28年11月 1 日



高岡大仏

原型を制作した中野又吉郎(雅号:双山)作
(明治36年鑄銅科卒)

高岡大仏は、文政8年(1821)と明治33年(1900)との大火で2度消失しました。現在の高岡大仏の建立は、篤信家の松木宗左衛門によって、明治40年(1907)に発願されましたが、経済的な難局のため、中々完成に至らず、その後、中川原町の萩野宗四郎らの資金協力があつて、発願から20年を経た昭和8年(1933)にやつと完成しました。原型師は地元の中野又吉郎(双山(そうざん))です。高岡大仏は古式の焼型重ね吹き技法で、焼造から着色までの全行程を高岡の職人達の手で行った高岡の銅像きつての大作です。

「昭和8年5月3日、開眼式を執行した銅製高岡大仏は高さ二丈五尺、蓮台の蓮華一枚一丈で混擬土(こんくりーと)の台を合わせれば地上五丈四尺五寸で、日本三大仏の一と称される。以つて高岡銅器铸件の趨勢を察するべきであろう」(『高岡铸件史話』飛見丈繁)

第100回

工芸建築科同窓会作品展 2016

4月17日(日)～5月5日(木)

建築界で活躍する卒業生の設計、施工した建築物をパネルで紹介。また在校生の各種コンテストでの入選作品も発表した。

……昭和53年 建築科卒 杉江 直樹



今年も、ゴールデンウィーク期間中に、「工芸建築科同窓会・作品展2016」が青井記念館美術館にて開催されました。第4回を迎え、自由な発想・芸術性・デザインを魅せた、住宅・事務所・施設・店舗建築の作品はもちろん、挑戦し続ける技術の大切さ・技術・知識の追求を感じさせた、建築と戦後の歴史・最新設備システム・板金作品など幅広く34作品が展示されました。又、在校生の学生作品も毎年継続して展示していた卒業作品に、2年生のコンペ作品や全国出品作品が加わり、模型も多数展示されるなどよりパワーアップした見応えのある作品展になりました。私自身も回を重ねる毎に、高岡工芸高校120年の歴史の重みと誇りそして工芸高校への愛着が増し、「同窓会に恥じないものを」「学生に何か伝わるものを」と題材に悩み、趣向にこだわり、「作品への思いを見る人にも何か感じさせたい・伝えたい」と自然に力が入ります。参加者の中には一つの会社から卒業生の数分、多数作品を出品しておられる方もおられ、毎年の出展を目標とし、仕事の励みにしている話も聞きます。工芸建築科卒業生の中でも「同窓会」の知名度はまだですが、新しい参加者の存在が、

この作品展を起点として着実に次の世代へと工芸高校の歴史が受け継がれているように感じます。同窓会にも今年新たに37名が加わり総勢2404名となりました。目標としている第10回日には、今まで培われてきた部分に若い力を取り込み、アグレッシブで情熱的な作品展が開催されると期待しています。最後に、青井氏のご支援、県の助成、又多くの卒業生の志により寄贈された青井記念館美術館で、多くの関係者の支援、協力を受け「工芸建築科同窓会・作品展」を開催できた事に深く感謝したいと思います。



「工芸建築科同窓会作品展を見学して」

……… 3年 建築科 麻生千寛

印象に残った作品は、「ひみ番屋街」。「はじめの家づくり」・「14帖用エアコン1台を床下に入れて省エネ暖房」・「ジオパワーステム」・「スズキアリーナ砺波インター店改装工事」の5つです。

「ひみ番屋街」は食事以外に足湯、マッサージ、露天風呂などの施設があり人々の憩いの場として考えられており、また床下から暖房器具の工夫により吹き出し口から暖められた空気がでるといふおもしろいアイデアがありました。

第101回

ニューヨークとやま 伝統工芸出品者展

5月12日(木)～6月12日(日)

2014・15年にニューヨークで開かれた「とやま伝統工芸PR展示会」の出演作家による展覧会が般若保さん(昭和34年 電気科卒)が中心となり開催した。

〈鑄金〉大澤光民(人間国宝)、〈高岡銅器〉般若保・般若泰樹(日本工芸会正会員)、〈高岡鉄器〉畠春齋、〈井波彫刻〉岩崎 努、〈金箔〉出町睦子、〈城端蒔絵〉小原好喬の県西部在住の七名が51点の作品を披露し、また5月29日(日)午後から出町睦子、般若泰樹、小原好喬の作家によるギャラリートークも行われた。

………平成9年 工芸科卒 小原好喬(城端蒔絵16世)

初代が安土桃山時代・天正3年(1575)に城端で塗師屋を始めて以来、城端蒔絵は天平の密陀絵の再現にはじまり、それに基づき小原家独自の城端蒔絵を案出し、一子相伝として継承してまいりました。明治維新の改革や戦後の変動期にも絶えることなく、今日まで伝統のあかりを守っております。昨年、NYの大西ギャラリーでの展覧会以来、バカラホテル、アジアウィーク、ワシントンDCの日本大使館など、海外での発表の機会をいただいております。これからも城端の地から技だけではなく、城端で育まれた文化、そして城端人の心を次代へ繋げていきたいと思っております。



第102回

「誰の鍵展」

8月18日(土)～7月3日(日)

絵画、金工、彫刻、など幅広い分野で活動する作家7人が作品を披露した。

主宰 猪原 椎 (平成18年デザイン科卒)
富山県内外より7名の作家が集まり、作品を持ち寄った。
日本画 あはたいと(猪原 推 H18 デザイン科卒)
齋藤 真希、ヤマウチエリコ (京都精華大学日本画専攻卒)

黒瀬 愛美(越中アートフェスタ入選)

・洋画 宮本明日香(越中アートフェスタ入選)

・彫刻 井野 辰弥(H18 デザイン科卒)

・金属工芸 垣内 佳那(H18 工芸科卒)

作品52点を展示した。

第9回 青湧会

8月9日(土)～8月29日(日)

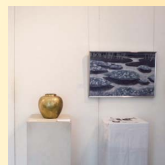
第103回

「十色―それぞれの色・形そして感動のワンシーン」と題して日頃の制作活動の成果を披露した。

「青湧会展を終えて」…主宰 太田紀久雄(昭和33年窯業科卒)

池上先生よりお話があり、33年卒業生の展覧会を開催した。出品作品が少なくなると芸術を心する人に声を掛け協力して頂いた。感謝感謝である。青湧会展がここまで開催できたのは、工芸の卒業生であるという自覚しかない。全国でめずらしい美術館のある高校。先輩、後輩の絆も強く毎年展覧会の作品を見てその成長に感動する。今年も中学生が鑑賞に訪れた。作品の説明をし写真を撮った後に中学校に送ったところ、校長先生、生徒さんからの手紙が届いた。絵や彫刻の説明が非常に参考になったとのこと。夢を追い実現めざして頑張ってほしいと激励した。

現在、喜寿を迎え日々目標を持って進んでいる。今年、12月24日、米国フロリダ州デイズニー・ワールド・リゾートで水墨画「龍蝶の舞」30号を縮小六号の版画にして販売予定である。「難病と闘う子供たちとその家族に一週間の思い出旅行」を提供、支援する活動である。少しでも世の中の役に立ちたいと思っている。



続々開催される

第104回

第9回 夢散歩

9月10日(土)～10月2日(日)

「洋画」磯部正子、田村紀子、本郷正典、岡山寛、豊本外良「陶芸」草島誠一「写真」磯部俊彦の7名によるグループ展が開催された。

今年度9回目の展覧会を開くことができ、また多くの方々に観覧いただき誠に感謝しています。パステル、アクリル、油絵、陶芸など、分野・技法の異なる作家で一つの空間に展示する面白さを毎回感じています。テーマはそれぞれ違いますが、作品に向かう真摯な姿勢は全員同じだと考えています。もししたらより面白くなるか、良くなるか、自分の思いが伝わらなかなど常に試行錯誤しながら日々創り続けています。



展覧会を通じて作家同士の交流はもちろん、会期中に出会った方々の考え方やアドバイス、励まし制作活動の刺激の一つになっております。また、会期中には「夢と音を語る集い」として、YUME SANPO(ゆめさんぽ)さんらの当会場での演奏会も行われ、作品と音楽の融合した心地のよい空間が現実でき、観覧されたお客さまにも大変好評でした。来年の「第10回夢散歩展」に向けて、より一層の作品づくりに向けて日々精進していきたくと想っています。

第105回

二十二展

9月10日(土)～10月2日(日)

2013年にデザイン・絵画科を卒業した38名、そのうち有志の15名による展覧会。絵画から工芸、衣服、デザインなど多岐にわたるジャンルの作品を展示した。

「二十二展」……平成24年デザイン・絵画科卒 一原 愛
「二十二展」は2013年にデザイン・絵画科を卒業した15名(38人中)による展覧会でした。工芸高校を卒業してから制作したものという条件で集められた作品は、絵画、木工、服、デザイン、義歯など幅広いジャンルのものとなりました。工芸生は沢山の可能性を秘めていることを知ってほしいとの思いで企画した展覧会でした。

この展覧会を通じて、友人や作品からいい意味で変わらない安心感と3年分の変化・成長を感じることができました。この展覧会を機会に久しぶりに絵を描いた人や、創作活動への励みになったとの声もあり、この展覧会が終わりでなく次への一押しになったことが嬉しいです。私もがんばりたいと思いました。

展覧会にはお世話になった先生方、同級生、出品者の親や友人、それから工芸生が来てくれたとのことでした。身内感の強い展覧会場だからこそ自由な発想で展示することができたように思います。ありがとうございました。



収蔵作品展

漆工展

II 高岡漆器の一端を担った工芸学校 II

6月18日(土)～7月3日(日)

高岡漆器は、多彩な色漆を使って立体感を表す彫刻塗、鏝絵、螺鈿、存星等の技法を取り入れ、その魅力や迫力を表現してきた。

初代校長の納富介次郎がデザイン、初代教頭の村上九郎作が彫り上げた「双鯛彫刻・漆器大盆」をはじめ初代石井勇助の「山水草花模様茶棚」、山崎覚太郎の漆絵額「紅梅」など31名37点を展示した。



彫刻展

II 工芸高校が輩出した彫刻家たち II

8月6日(土)～8月28日(日)

本校創設に際して納富介次郎の招きにより金工科教師として赴任した大塚秀之丞は、24年間に在籍し高岡の彫刻や金工の礎を築き上げた。

今回は草創期、大正、昭和、平成に制作された作品を31点と校舎内外の作品を写真で紹介した。またこれらの作品を鑑賞するだけでなく、模写することで作品の良さと造形を学ぶ機会にしたいと彫刻作品デッサン会を企画した。



文化部合同展 2016

7月6日(水)～7月31日(日)

生徒たちの日頃の活動の成果を発表する同展に写真部、美術部、クラフト部、書道部、陶芸部、デザイン部、機械工学部、電子機械工学部、電気工学部、建築工学部、土木環境工学部、の作品164点が展示された。また、オープニングでは吹奏楽部のミニコンサートが行われ華を添えた。

3年デザイン・絵画科 高田つかさ 今回の文化部合同展に出品されている作品はどの作品も部員の情熱が伝わってくるものばかりでした。建築科のコンペイション作品は、どれも細かく緻密に設計されています。また写真部の作品は、運動会の様子でどの生徒も生き生きとした顔が描かれていたのが印象的で感動しました。

私の在籍しているデザイン絵画科にデザイン研究部の部員が多く、そのためか、イラストの完成していく過程をみて、きめ細かな作業も一切手を抜かないで取り組んでいる姿に感心させられます。

尚美展関連「同窓生作品展」

◎同窓生・PTA・教職員の作品展示

同窓生41名54点、PTA31名44点、教職員20名27点、県青少年美術展入賞作品(絵画部門、デザイン部門、彫刻部門、工芸部門、写真部門)それぞれ34名34点が堂々と制作成果を披露した。〈特別コーナー設置〉

また創立記念講演の講師をされた沼田喜四司氏デザインの商品も展示された。

沼田喜四司(昭和40年 機械科卒)
平成21年春の「黄綬褒章」受賞

昭和41年に株式会社「ゴールドウィン」に入社 最終スポーツウェア商品の企画業務に専念され、また技術開発においても新たな分野の開拓に尽力された。

10月8日(土)～10月30日(日)

お知らせ

平成28年度 改組新第3回日展

入選・出品者

(本校関係者)

〈洋画〉

初入選 高田 望 H23年 デザイン科卒
顧問 藤森 兼明 S29年 図案絵画科卒

〈工芸美術〉

特選 谷口 信夫 S42年 工芸科卒
再入選 正和 朗実 H20年 工芸科卒
織田 定男 S63年 工芸科卒
池上 猛 S48年 デザイン科卒
斉藤 晴之 旧職員
川原 和夫 S31年 木材工芸科卒
尾長 保 旧職員

〈彫刻〉

無鑑査 小西 徳泉 S60年 工芸科卒
川田 良樹 S46年 工芸科卒
田畑 功 S49年 デザイン科卒

編集後記

本年度4月に同窓生ギャラリーは記念すべき100回を迎え、多くの同窓生の方々に美術館を利用して頂いております。後期、来年度と同窓生の方々の様々な展覧会が開催される予定です。この機会を機に青井記念館美術館がより多くの人に親しまれ、更なるご活躍をお祈りいたします。

本年度より勤務させて頂くこととなりました。伝統ある工芸高校に併設されている美術館として、今後とも生徒や同窓生の方に寄り添い、方々に誇られる美術館であるよう、尽力に努めたいと思います。

(竹内奈津季 記)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇
TEL 〇七六六二二一六三〇(内線611)
FAX 〇七六六二二一六三一